

資料配布の場所・日時

1. 北海道庁道政記者クラブ
2. 札幌市政記者クラブ
3. 北海道建設記者会
4. (株)建設行政新聞社

日時：令和8年10月 6日（14：00）



国立研究開発法人土木研究所
寒地土木研究所
令和8年10月 6日

11月5日（木）に寒地土木研究所が講演会を開催

～ 豪雨災害から10年 北海道の治水対策の進展とこれから ～

寒地土木研究所講演会は、積雪寒冷地に関連する土木技術の研究成果等についてより多くの方々に紹介することを目的に、毎年札幌市で開催しています。

- 1 日 時：令和8年11月 5日（木） 13：20～17：00 開場 12：30
- 2 開催場所：共済ホール（札幌市中央区北4条西1丁目1 共済ビル6F）
- 3 プログラム：詳細は別紙をご覧ください
基調講演
「平成28年北海道豪雨から10年 — 治水技術の進展と次の10年への展望」
北海道大学大学院工学研究院 教授・工学院院长
泉 典洋（いずみ のりひろ）氏
- 4 参加費：無料
- 5 参加申込：令和8年11月 2日（月）まで
※下記の寒地土木研究所ホームページ イベント情報からお願いいたします

<https://chouseikan.ceri.go.jp/web/event/>

寒地土研 イベント情報 🔍 で検索



寒地土木研究所HP（イベント情報）

※公益社団法人土木学会継続教育（CPD）認定プログラム
※全国土木施工管理技士会連合会継続学習制度（CPDS）認定プログラム

取材いただける場合は、下記問合せ先までご連絡ください。（平日 9：00～16：00）
当日、直接会場にお越しいただいても結構です。

【問い合わせ先】 国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所

寒地技術推進室 室長

ながせ ただし
長瀬 禎

主任研究員

すずき まさゆき
鈴木 政幸

電話番号 011-590-4046

第40回

寒地土木研究所 講演会

～豪雨災害から 10 年
北海道の治水対策の進展とこれから～

2026
11.5 木

開場 12:30 開演 13:20

会場 共済ホール 定員 450名

札幌市中央区北 4 条西 1 丁目 1
共済ビル 6F

会場アクセス



**参加費
無料**

プログラム

基調講演 13:35～14:35

「平成 28 年北海道豪雨から 10 年
—治水技術の進展と次の 10 年への展望—」
北海道大学大学院工学研究院教授・工学院院长 泉 典洋氏

一般講演 14:45～16:55

「平成 28 年豪雨災害から 10 年
—災害対応力の継承と建設 DX への歩み—」
植村建設株式会社代表取締役社長 植村正人氏

「水害に立ち向かうための防災力向上の取り組み」
北海道開発局事業振興部防災課長 桑村貴志氏

「将来の豪雨に備える河川管理・
被害軽減に関する研究開発」
寒地河川チーム上席研究員 正木孝治

「地形地質からみた 2016 年日勝峠斜面災害とは
—斜面災害には氷河期が関係していた?—」
防災地質チーム上席研究員 日外勝仁

「豪雨により頻発する土砂流出に対応した
農地の整備・管理技術」
水利基盤チーム総括主任研究員 鵜木啓二

お申し込み

寒地土研 イベント情報  で検索!

スマホ・タブレットはこちらから

<https://chouseikan.ceri.go.jp/web/event/>



本講演は、下記プログラムに認定されています。



(公社) 土木学会継続教育 (CPD) プログラム
認定番号: JSCE26-1228
認定単位: 3.0 単位



(一社) 全国土木施工管理技士会連合継続
学習制度 (CPDS) プログラム
プログラム番号: 1116209
形態コード: 101-13 ユニット

参加者のみなさまへお願い

- お申し込み時の QR コード画像をスマートフォンに保存
もしくは印刷してご持参願います。
- 基調講演の資料は当日開場で配布いたします。
- 一般講演の資料は紙配布を行いませんので、必要に応
じ後日ホームページに掲載するデータをダウンロード
してご覧くださいますようお願いいたします。

第40回寒地土木研究所講演会

基調講演

13:35～14:35

平成 28 年北海道豪雨から 10 年
—治水技術の進展と次の 10 年への展望—



北海道大学大学院
工学研究院教授・工学院院长

泉 典洋氏

平成 28 年 8 月、北海道は相次ぐ台風による記録的な豪雨に見舞われ、各地で堤防決壊や河岸侵食、橋梁被災など甚大な被害が発生した。この災害は北海道の河川が抱える治水上の課題を浮き彫りにするとともに、その後の治水対策や河川技術の発展にも大きな契機を与えた。本講演では、平成 28 年豪雨の被害と教訓を振り返り、その後 10 年間に進められてきた研究開発と、そこから得られた新たな知見を紹介する。さらに、これまでの成果と残された課題を踏まえ、今後の北海道の治水と、それを支える河川技術・研究のあり方について展望する。

講演者プロフィール

1987 年 3 月 東京大学工学部土木工学科卒業
1993 年 9 月 米国ミネソタ大学大学院修了 (PhD)
1993 年 10 月 東京工業大学工学部土木工学科助手
1996 年 4 月 東北大学工学部土木工学科助教授
1999 年 8 月 タイ国アジア工科大学助教授 (JICA 長期専門家)
2001 年 9 月 東北大学大学院工学研究科助教授として帰任
2006 年 4 月 北海道大学大学院工学研究院教授
2023 年 4 月 北海道大学大学院工学研究院教授・工学院院长

現在に至る

主な公的委員など

2006 年～ 北海道開発局十勝川、留萌川リバーカウンセラー
2008 年～ 札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会座長
2012 年～ 北海道十勝川右岸圏域河川整備計画検討委員会座長
2016 年～ 土木研究所外部評価委員会委員
2017 年～ 北海道河川審議会委員 (2025 年から会長)
2021 年～ 国立研究開発法人審議会委員
2022 年～ 熊本県「新たな流水型ダムの事業の方向性・進捗を確認する仕組み」有識者

一般講演

14:45 ～ 15:05

平成 28 年豪雨災害から 10 年
—災害対応力の継承と建設 DX への歩み—



植村建設株式会社代表取締役社長 植村正人氏

平成 28 年豪雨災害での経験と i-Construction の始動から 10 年。災害対応力の継承、建設 DX を活用しながら地域を支え続けるために歩んできた私たちの取り組みを紹介します。

15:05 ～ 15:30

水害に立ち向かうための防災力向上の取り組み



北海道開発局事業振興部防災課長 桑村貴志氏

平成 28 年洪水のような大水害に立ち向かうためには、流域の様々な関係者が連携した流域治水の考え方による水災害対策が必要です。北海道開発局ではこの考え方に基づき、治水事業のほかにも流域自治体の防災力向上を支援しており、それらの取り組みを紹介します。

15:30 ～ 15:55

将来の豪雨に備える河川管理・
被害軽減に関する研究開発



寒地河川チーム上席研究員 正木孝治

近年頻発する豪雨や気候変動を踏まえて新たな治水対策が進められています。本講演では過去の水害を踏まえつつ将来の豪雨に備える河川管理・被害軽減に関する研究開発を紹介します。

16:05 ～ 16:30

地形地質からみた 2016 年日勝峠斜面災害とは
—斜面災害には氷河期が関係していた?—



防災地質チーム上席研究員 日外勝仁

2016 年 8 月の台風 10 号により日勝峠周辺等で発生した数多くの斜面災害の地形地質的特徴を紹介するとともに、斜面災害と周氷河斜面との関係について概説します。

16:30 ～ 16:55

豪雨により頻発する土砂流出に対応した
農地の整備・管理技術



水利基盤チーム総括主任研究員 鷗木啓二

頻発する豪雨により農地は侵食リスクが高まり、斜面崩壊等に起因した濁水流下は農業生産に影響します。これらに対する農地の整備・管理技術に関する研究開発を紹介します。